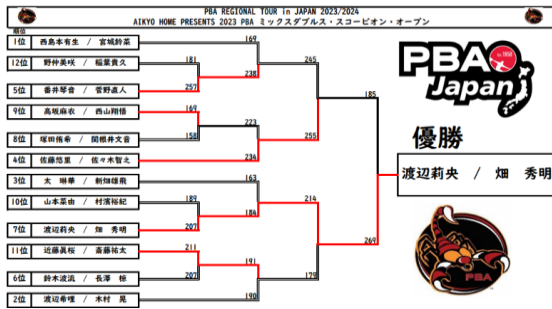


# 4年ぶりのミックスダブルス 栄冠は、 渡辺・畑チームに！！



畑秀明 (JBC)



渡辺莉央 (JBC)

## 怒涛の7連続ストライクで 勝利を決めた！！

予選は49チーム98名の選手で争われた。JPBAプロチームも39名参加し、予選から迫力のある大会になった。男女の組み合わせで、各々6ゲーム行い、チーム合計12ゲームの得点で、各シフト上位10チームが予選通過。個人では、Aシフト新畑夕飛(JBC)が227アベ、Bシフト佐々木智之(JBC)243アベで個人1位で打ち上げた。準決勝は、予選スコアは持ち越しで、4ゲームスカッチダブルスでの戦い。ここからがダブルスの真骨頂。上位12チームを決める戦いだ。

決勝トーナメントは、上位4チームが1回戦シード。7位で1回戦から戦う渡辺・畑チームは辛勝ながら、3チームを次々と打破し、決勝に勝ち上がる。一方のゾーンは1回戦シードの佐藤・佐々木チーム。予選Aシフトまさかの予選落ち。ここから気持ちを切り替え空きがあったBシフト予選に再挑戦。今度は、予選2位通過しリベンジを果たした。準決勝も4位で通過し1回戦シード。決勝TMも見事なチームワークで2回戦234、3回戦255で好調に勝ち上がってきた。

いよいよ決勝戦。奇しくも、両チームともナショナルチームの同士の戦いになった。決勝レーンはTMの間使われていない、11, 12番レーン。ここに明暗が分かれた。中々アジャストが出来ない佐藤・佐々木ペアに対し、2フレから怒涛のストライクラッシュ、8フレ渡辺のストライクで勝負あり。渡辺・畑の神がかりに近いストライクラッシュ269の高得点で優勝を決めた。チームの畑選手は、パートナーこそ違え、4年前のミックスダブルスでも優勝、2連覇となった。

今回のミックスダブルスは、JBCナショナルチーム員が上位を占め、国際大会などで団結して戦うチーム戦の経験が生きたのではないかと。またスコピオンのコンディションに合わせたラインどり、ボール選択、チームワークに優れたチームが活躍した大会になった。



パーフェクト達成 稲葉貴久・廣岡光希 選手

